

モンパノキに集まるツمامラサキマダラ

チョウ目タテハチョウ科 学名: *Euploea mulciber* 英名: Striped blue crow

近年、博物館近くにある深川橋のそばでツمامラサキマダラの面白い習性が観察できました。植栽されているモンパノキのうち、特定の一本にだけオスが群がり、鈴なりになってとまり、茎から汁を吸っていました。

ツمامラサキマダラはタテハチョウ科に属するマダラチョウの仲間で、一年中見ることができます。特徴はオスとメスで羽の模様が大きく異なることです。オスは前の羽の表側に光沢のある青紫色の美しい模様が目立ちます。羽の外側は濃い茶色ですが散らばった白い模様が少しあるだけです。一方、メスは前の羽の青紫色の模様が目立たないかわりに後ろの羽の白いスジ状の模様が目立ちます。このツمامラサキマダラはもともと日本国内には生息しておらず、台湾から八重山諸島に風で運ばれてくる迷チョウでした。しかし、1992年頃から沖縄島に定着するようになり、現在では奄美地方から八重山諸島にかけての地域で分布が確認されています。

沖縄では他に県蝶に制定されているオオゴマダラ、アサギマダラ、リュウキュウアサギマダラ、カバマダラ、スジグロカバマダラが定着し、生息しています。

マダラチョウの仲間は幼虫のときにはガジュマルなどのクワ科の他、キョウチクトウ、ホウライカガミなどの毒草を食べて体内に毒をためます。成虫になるとセンダングサなどの花の蜜を吸いますが、体内にためた毒は残るようです。

こうしたツمامラサキマダラですが、なぜモンパノキに群がっているのか気になり、調べてみると、成虫のオスはエサとする食草とはまったく無関係なモンパノキなどのムラサキ科の植物に飛来し、汁を吸うことが知られていました。オスのこの行動はモンパノキから求愛行動を引き起こさせる化学物質(フェロモン)の元となる成分を摂取しているそうです^{[1][2]}。また、モンパノキなどから摂取する成分に対して、昆虫の天敵であるクモ類が拒否反応を示すため、身を守るための防衛効果があることも指摘されています^[2]。

深川橋の地点では過去2年とも6月を中心とする時期にツمامラサキマダラが群がっている光景を見ることができました。虫が苦手な方からするとチョウの群れに囲まれるというのはあまり想像したくないかもしれませんが、自然界でチョウが乱舞する光景を多くの方に見ていただきたいなと思います。



ツمامラサキマダラ・オス



ツمامラサキマダラ・メス

参考文献

- [1] 荻原和仁 2009
「マダラチョウのメスと
モンパノキとの相関に関する研究」
- [2] 本田計一 2011
「植物毒利用昆虫における
アルカロイド摂取の進化起源—特に
生殖能力増進作用の評価」



モンパノキ



モンパノキに群がるツمامラサキマダラ



汁を吸うツمامラサキマダラ